



5月29日(木) 大阪・関西万博 国連パビリオン

「未来の平和を築く若者たち：川瀬実衣南さん、アイスランド大統領と平和とジェンダー平等を語る」

5月29日(木)、大阪・関西万博の国連パビリオンで、アイスランド・ナショナルデーを記念したトークセッションが開催されました。立命館大学国際平和ミュージアムの学生



スタッフである川瀬実衣南さん（産業社会学部3回生）がパネリストとして登壇し、アイスランド大統領のハトラ・トーマスドットイル氏と「平和とジェンダー平等」をテーマに議論を交わしました。アイスランドは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みにより、世界平和指数と男女平等で1位を維持し、過去5年間、世界幸福度指数で3位にランクされています。

トーマスドットイル大統領は「平和、尊厳、平等、そして愛の中で非暴力の世界を創ることが重要である。貧困救済と不平等解消のため社会経済モデルを改善し、地球を守るために政府と私たちが協力して行動する必要がある」と述べました。

川瀬さんは「私には世界から子ども兵をゼロにするという夢があります。小学校6年生の修学旅行で立命館大学国際平和ミュージアムを訪れたとき、特に子ども兵士の問題に衝撃を受けました。それ以来、この状況を変えたいと思い、英語を学び、高校の国際コースに進学し、いま、立命館大学で国際平和ミュージアムの学生スタッフとして活動しています。

去年の夏、ルワンダで貧困層の人々を支援するソーシャルビジネスを行う企業でインターンをして、その後、ウガンダで元子ども兵の社会復帰を支援しているNPOを訪れ取材をしました。私は使命感や責任感をもって夢の実現に没頭してきました。しかし、帰国後、自分の生活や幸せ、他のことを忘れ、元子ども兵のことばかりに囚われすぎていたことに気づきました。その結果、何もかもが手につかなくなり、しばらくの間、気持ちが落ち込み、家から出ることができませんでした。しかし、国際平和ミュージアムで偶然出会ったグスドゥリアン・ネットワークのアリサ・ワヒドさんから、落ち込んだ時の対処方法を教えてもらうことができました。これをきっかけに、私は次のステップに進む勇気を得ることができました」と述べました。



トーマスドットイル大統領は「私が大切にしていることは、健全な地球、若者たちの明るい未来、包括的な社会、そして平和な世界です。時には、何もできないと覚えることがあります。しか



し、そのような考えを乗り越えることが重要です。アイスランドで大統領としてやりたいことの一つは、若者の精神的な幸福を向上させることです。私たちは数多くのことを教えています、レジリエンスや勇気、喜びを持って困難に立ち向かう方法については、十分に教えていません。私たちは、私たちの声や価値観、投票、資金を使って、より良い世界を作る手助けができます。

希望を持ち、行動することが問題解決の鍵です。約10年間、私は他国の子供たちを助けようとし、その問題解決を試みました。しかし、人を助ける前に自分を助けることが重要です。自分自身と向き合い、自分がどうしたいかを考え、自分の心に正直になることが大切です。そうして自分を労わってから他の人たちと幸せに向き合うことが重要です。これは私の経験から学んだことです。困難を乗り越えるには、辛い時期は良い時代への準備期間と考えて、希望を持ち続けることです。その先には、きっとより良い未来が待っています」と述べました。

トークセッションを終えた川瀬さんは、「トー

マスドットイル大統領は非常にパワフルな方で、話し始めると会場の空気が一変しました。また、お話しも一国のリーダーとして魂が込められていると感じました。また、私が一人で活動していたことに対して“ありがとう”と言ってくれたことは、自分が国のリーダーに認められた気がして、とても勇気づけられましたし、非常に嬉しかったです。地球全体で様々な国が共同して取り組むことの重要性を強調し、一緒にやろうとする姿勢がとても良かったです。私は“人間は微力だが無力ではない”という言葉がとても好きです。問題から目を背けなくなつた時にこの言葉を思い出すと“頑張ろう”という気持ちにさせてくれます」と感想を述べました。



川瀬さんのような若者が未来の平和を築くために積極的に活動している姿は、私たちに希望を与えてくれます。彼女の取り組みがさらに多くの人々に広がり、平和な社会の実現に貢献することを願っています。

立命館大学国際平和ミュージアム

